

仙台市

地域活動の事例紹介

おらほ！のまちづくり

まちづくりの

ヒント発見！？

地域では、いろいろな創意工夫をしながら、まちづくりに取り組んでいます。ここにご紹介する事例が皆さんの活動の参考となればと思います。

目次

地域の絆が防災につながるように・・・・・・・・・・・・・・・・	1P
～七郷地区町内会連合会～【七郷地区】	
郷土の自然と歴史の学びを通した防災コミュニティづくり・・・	2P
～ライオンズマンション長町南第2 自主防災組織～【長町地区】	
新たな絆づくりに向けた第一歩・・・・・・・・・・・・・・・・	3P
～泉中央南町内会～【泉中央南地区】	



お知らせ・・・

「自主防犯活動に取り組む地域のみなさんの活動を応援します」 ～仙台市地域安全安心まちづくり事業～



仙台市では、安全で安心なまちづくりを目指して自主的に防犯活動に取り組んでいる地域の皆さんの活動を応援しています。

地域の皆さんが自主的に取り組む防犯活動で、地域の犯罪の未然防止に寄与するもの（地域におけるパトロール活動など）や地域住民の防犯意識の高揚に寄与するもの（防犯教室の開催など）、地域の環境浄化を図るもの（落書き消し活動など）に対して、活動費の一部としてパトロール活動の際に使用する腕章や懐中電灯などの購入費用や防犯意識高揚のための広報啓発チラシの作成費用などを対象に助成を行っています。

募集要項は、市民のへやや各市民センターなどで例年5月頃に配布しております。

※平成28年度の募集は終了しましたが、来年度の募集を行う場合は下記ホームページなどに情報を掲載いたしますので、そちらをご確認ください。

■アドレス <http://www.city.sendai.jp/shiminsekatsu/kurashi/anzen/anzen/machi/torikumi/boshu.html>

■お問い合わせ 市民局 市民生活課 Tel. 022 (214) 6146

記事に関するお問い合わせ先

- 若林区役所まちづくり推進課
電話 022 (282) 1111 (内線 6132)
- 太白区役所まちづくり推進課
電話 022 (247) 1111 (内線 6138)
- 泉区役所まちづくり推進課
電話 022 (372) 3111 (内線 6132)
- 市民局地域政策課
電話 022 (214) 6129 (直通)

地域の絆が防災につながるように

七郷地区町内会連合会

七郷地区町内会連合会では、地域の防災訓練に幼稚園、小・中学校が連携して授業日に参加するなど、多数の住民が参加します。訓練で大切にしているテーマは「顔の見える関係づくり」です。

蒲町中学校区 学校地域合同防災訓練

平成28年6月25日、蒲町中学校区において学校地域合同防災訓練が実施されました。震災後、毎年開催されており、今年で5回目の開催です。子どもたちは蒲町小学校、蒲町中学校にそれぞれ登校し、地域



住民は午前10時の発災に合わせ、地域のいっとき避難場所に集まり、点呼後、町内会ごとに指定避難所に集合しました。

毎回1,500名以上の小・中学生や地域住民が参加しており、回数を重ねるごとに、住

民の間に防災意識が根付いてきました。

今回の訓練では、中学生が力を発揮し、小学生の手本となるような防災の授業や、簡易トイレの組み立てなどを行いました。また、子どもたちに自分が所属する町内会の会長の名前を覚えてもらうことも、防災訓練の大切な目的です。合同防災訓練実行委員長の木村さん（七郷地区町内会連合会副会長）は、「遠い親戚よりも近くの他人」という言葉をお話しています。これは、震災時には「補うのは隣同士」という思いからです。地域の協力があってこそその防災訓練であり、震災が起きた際に、地域の絆が助け合いにつながるということに結びついていくのだと感じられました。



通信訓練をする小学生

七郷中学校区 学校地域合同防災訓練



災害用備蓄倉庫内物資の説明をする中学生

平成28年9月24日、七郷中学校区において学校地域合同防災訓練が実施されました。当日は約2,500名の地域住民が参加しました。今年度から参加者が増加したため、七郷中学校及び七郷小学校の2つの会場での防災訓練となりました。

七郷小学校は、文部科学省研究開発学校の指定を受け、教育課程に防災安全科を創設しています。11月25日には文部科学省から講師を招き、全国から防災担当の

先生方も多数集まり、公開研究会が開催されました。

今年度、防災訓練の会場が分かれたため、初めての試みとして、リコージャパン(株)協力のもと、両校をテレビ会議システムで結んだ訓練を実施し、全体会を成功させることができました。将来的には、このようなシステムを実際の災害時にも活用できるようになればとの期待が寄せられました。

また、地域の消防団による実演や、生徒たちを中心とした災害用備蓄倉庫内物資運搬訓練、防災に関するミニ講座、授業発表も行われました。「防災で一番大切なことは、地域が仲良くすること」と、地域合同防災訓練本部長の堀江さん（七郷地区町内会連合会副会長）が話されるとおり、防災訓練を通して、「顔の見える関係づくり」が行われています。

人口が増加している七郷地区であるからこそ、今後も地域の連携を一層強化していきたいという強い思いで防災訓練に取り組んでいます。

津波防災の日

藤田町内会 津波防災訓練

11月5日は「津波防災の日」です。その由来は、1854年11月5日「安政南海地震」が起き、津波が和歌山県広川町を襲った際に、村民であった浜口梧陵が稲わらに火を付けて、暗闇の中で住民を高台に避難させて命を救った「稲むらの火」という逸話によるものです。

仙台東部道路東側の4町内会（神屋敷町内会、四ツ谷町内会、藤田町内会、笹屋敷町内会）では、毎年、津波防災訓練を実施しており、今年度は藤田町内会がこの日に合わせて防災訓練を実施しました。藤田町内会では、町内会独自の取り組みとして、宮城県土木部防災砂防課協力のもと、「津波浸水表示板」を設置しています。当日は、100名以上の住民が参加し、仙台東部道路の災害避難階段への避難や白旗掲示による安否確認、タオルや手拭いなど身近なものでの応急救護

を行うなど、実践的な訓練を行いました。

9月24日にも学校地域合同防災訓練が開催されており、中学生による防災に関する授業発表の再現が行われ、大変好評でした。

藤田町内会において、津波防災訓練は5回目を迎えました。これまでの訓練を通して、地域全体で防災意識を高めています。



災害避難階段を利用して仙台東部道路へ避難！

郷土の自然と歴史の学びを通じた防災コミュニティづくり

～ライオンズマンション長町南第2 自主防災組織～

楽しく学ぶ「ぼうさいカフェ」

ライオンズマンション長町南第2では、震災後に実施した、住民による防災マニュアルの作成や備蓄物資の見直しをきっかけとして、平成26年に自主防災組織が設立されました。

はじめは防災訓練や備蓄物資の整備点検をメインに活動を行っていましたが、居住者が気軽に顔を合わせる機会を定期的につくるため、地域の自然や歴史を学び防災に生かす自主勉強会「ぼうさいカフェ」を隔月で開催するようになりました。「地名が教えてくれる地震による土地の揺れやすさ～鍋田・中谷地と長町南～」や「神社と自然災害との関係～蛸薬師如来～」といった住民が興味を持つような地元に関



ぼうさいカフェの様子



ぼうさいノート

するテーマのもと開催した結果、マンション住民の防災意識の向上や防災コミュニティの醸成につながったそうです。

また、平成27年度には太白区のまちづくり活動助成事業の指定を受け、カフェでの勉強内容をまとめた小冊子「ぼうさいノート」を製作・発行しました。マンション住民だけでなく、地域の町内会や市民センター、小学校にも無償配布し、地域の防災学習に役立てています。

おもしろい防災活動を目指して

ぼうさいカフェの講師役を務める佐藤さんは、「防災に関するありきたりで一般的な活動ではなく、参加者におもしろいと感じてもらえるような活動を行うことを心がけています。例えば、防災訓練はマンション独自の設備を用いた実践的なもの、カフェは近隣の自然や歴史に関するものをテーマにするこ



ぼうさいまち歩きの様子

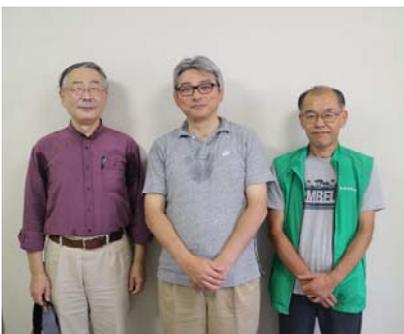
とで、マンションの住民が防災を身近なものにとらえることができるようになりました」と話しています。カフェで学んだ地名や防災拠点を実際に訪れたいという参加者の要望もあり、平成28年には「ぼうさいまち歩き」を2回にわたって開催したそうです。

また、地域町内会には、カフェへの参加呼びかけや町内会主催の防災訓練に自主防災組織として参加したり、小学校には、作成した「ぼうさいノート」を配布して授業形式の解説を行ったりしたことで、マンションだけでなく、地域の中においても、顔の見える防災活動の輪を精力的に広げています。

「おもしろい」防災活動を通して、地域全体の防災力向上に努めています。



今後のひろがり



自主防災組織のみなさん

ぼうさいカフェや防災訓練などといった防災コミュニティづくりの活動によって、平成27年には「仙台市社の都防災力向上マンション」の防災活動事項において認定を受けることとなりました。

代表の宮川さんは、「以前は物置代わりになっていたマンションの集会室が、カフェで

使用するようになってからは、住民が自由に使える交流の場となりました。町内会との関係もこれまでは希薄でしたが、カフェや防災訓練を通して、町内会からマンション住民の町内会役員の就任をお願いされるなど、現在では地域との結びつきが強くなりました」と活動の成果を実感しています。

今後については、カフェの継続開催はもちろん、内容の充実と対象地域を拡大した「ぼうさいノート増補第2版」の発行や、マンションが所属する町内会を対象とした「ぼうさいマップ」を新たに作成して地域の住民や小中学校に配布する予定だそうです。

ライオンズマンション長町南第2自主防災組織の活動は、より一層、地域の防災活動の輪を広げていきます。



新たな絆づくりに向けた第一歩

泉中央南町内会

高い高齢化率と少ない交流の機会

泉区唯一の復興公営住宅である泉中央南復興公営住宅（現泉中央南市営住宅、193戸）は、市内で被災した方々をはじめ、沿岸部や隣県の被災者など、様々な地域に住んでいた方々の寄り合い所帯です。町内会長の中村さんも自宅が全壊し、みなし仮設住宅での生活を経て入居しました。

「班長すらやったことがなかったので、町内会長になるつもりは毛頭ありませんでした」と中村さん。しかし、毎週開催される相談会で区の職員と話すうちに、コミュニティの基



泉中央南市営住宅

礎づくりを引き受けようと思うようになったそうです。

そして、平成27年12月に開催された町内会設立総会において、中村さんは町内会長に選出されました。入居者の30%を超える高い高齢化率と入居者同士の交流の機会が少ないという課題に、町内会長として向き合うことになったのです。

課題の解決に向けて



泉中央南町内会長
中村さん

課題の解決に向けて、町内会が動き出しました。

まずは高齢化に関する課題です。社会福祉法人愛泉会が運営する、近隣の『望岳荘』(老人福祉施設)に町内会の特別会員になってもらい、地震などが発生した際に、高齢者や障害のある方が望岳荘内の地域交流スペースにすぐに避難できるよう、協定を取り交わしました。

また、入居者同士の交流の機会を増やすため、「(公財)音楽の力による復興センター・東北」の無償で音楽家を派遣する制度を活用し、集会所でコンサートを開催しました。2人のヴァイオリニストによる『ふれあいコンサート』には、約30名の入居者が参加して楽しいひと時を過ごしました。音楽で交流が生ま

れることを実感したため、現在では、同制度を利用して、声楽家の指導を受けながら全員で歌う『歌声サロン』を毎月開催し、30名前後の方々が参加しています。その他にも、社会福祉協議会、市民センターなどがサロンや出前講座などを開催し、入居者の交流の機会を増やしています。

しかし一方で、男性の参加者が少ないことが課題となっています。「男性は出不精で人見知りですからね。今度は飲み会やカラオケ大会など、気軽に参加できるものを企画したいです」と抱負を語ります。



♪♪ 歌声サロンの様子 ♪♪

初めての手作りイベント「芋煮会」

平成28年7月、「泉中央南復興公営住宅入居者支援連絡会」（地域団体、仙台市関係課などで構成）に出席した中村さんは、「町内会で初めての手作りイベントとして秋に芋煮会をしたいと考えています。成功させるため、ご協力をお願いします」と話しました。すると、社会福祉協議会による芋

煮用の大鍋の貸し出し、区の職員による手伝いがすぐに決まりました。中村さんは、「多くの団体からご支援をいただき本当にありがとうございます。町内会が立ち立てできるまで引き続きよろしく申し上げます」と感激した様子でした。

役員会で数回検討した結果、他にもボランティアグループによる「アルプホルンと二胡によるコンサート」、中村さんによる避難方法などの「防災講座」を行うこととなりました。当日は、これまでで最多の50人以上が参加し、懇親を深めることができました。

今回の成功に、中村さんは今後の町内会運営に自信を深めたそうです。町内会長になってからの約1年を振り返り、達成度はどれくらいですか、と聞くと「実は老人クラブを作りたいのですが、核となる人がなかなか見つからなくて。だから6割5分くらいかな」と笑顔で答えてくれました。



芋煮会の様子

【入居者支援連絡会（地域団体）】※50音順

- ・泉区子ども会育成会
- ・泉区中央市民センター
- ・泉青年会議所
- ・泉地区防犯協会連合会
- ・泉南地区民生委員児童委員協議会
- ・学校法人ろりぼっぴ学園
- ・上谷刈連合町内会
- ・加茂児童センター
- ・加茂市民センター
- ・加茂小学校
- ・加茂小学校父母教師会
- ・加茂中学校
- ・加茂中学校区学校支援地域本部
- ・社会福祉法人愛泉会
- ・社会福祉法人なのはな会
- ・仙台市社会福祉協議会泉区事務所
- ・虹の丘地域包括支援センター
- ・のびすく泉中央

